

運動器疾患の「なぜ？」がわかる臨床解剖学 第2版

徒手療法がわかる Web 動画付

工藤慎太郎・編

評者 面谷 透 (東京先進整形外科院長)

B5 判・248 頁
2024 年 3 月
定価：5,280 円
(本体 4,800 円＋税 10%)
ISBN978-4-260-05438-6
医学書院 刊



本書は、整形外科医をはじめとする医師こそ読むべき書籍であると考えています。

整形外科では、どうしても手術適応かそうでないかが焦点となりがちです。手術適応にならない場合には保存治療が行われますが、その一つとして適用される理学療法をあらかじめ想定し、実際に行われている内容を十分に把握している医師がどれだけいるのでしょうか。

近年、運動器領域においては、エコーを活用した診療が急速に普及・発展しています。エコーの強みは、リアルタイムな画像評価・診断だけでなく、エコーガイドで注射を行えることにあります。従来から行われていた関節内や腱鞘内への注射を、画像的な根拠とともに正確に行えるようになったことで、診断能は格段に向上しました。また、組織間を液性に剥離するハイドロリリースという手技は、エコーガイド下だからこそ行えるようになった新しい治療法です。こうしたエコーを活用した運動器診療を医師が行えるようになったことで、医師と理学療法士は以前に比べて急速に接近し、集学的なアプローチにより患者さんの診療を行う機運が高まっています。

そうした他職種が連携した運動器診療を実践する上で、本書は最高の教科書であるといえます。本書は、一般的な教科書のように知識が羅列されているのではなく、診療の現場でよく出合う疾患・患者像を取り上げた上で、それらにまつわる疑問に答える形式で進んでいきます。それぞれの要素が有機的にリンクし、各症例の診療を行うための文脈が形成されています。まるで工藤慎太郎先生のリハビリテーションをそばで見学し、患者さんへの説明を隣で聞いているような臨場感が味わえます。

注目すべきは、解剖学的な解説の奥深さです。工藤先生のライフワークである臨床解剖学のエッセンスが随所に織り込まれ、診療のステップが論理的に展開されていきます。また、理解をサポートするイラストは秀逸で、視覚的な強い納得感を与えてくれます。

本書が、現在の運動器診療をアップデートさせる起爆剤になることは間違いありません。本書をきっかけとして、一人でも多くの患者さんに恩恵がもたらされることを祈念しております。